

篠原正瑛 せいはら せいけい 評論家。明治四十五年二月二十九日東京生れ（九二—
 一）。昭和十四年上智大學哲学科卒。ドイツの留學し、ベルリン大學、
 イエーナ大學で哲學を専攻し、現地で教職に就く。ドイツ降伏後一時
 抑留、スイスを經て歸國後評論活動。

譯書に、シエプランガー著『文化病理學』（昭和二十五年五月二十日
 弘文堂）、「アテネ新書」（、「同」）、「たましひの魔術」（昭和二十六年五月
 十五日岩波書店）、「岩波現代叢書」（、「クロード・レーザリー他著」）
 「ロシマの罪と罰—原爆パイロットの苦惱の手紙」（昭和二十七年八
 月五日筑摩書房）等。著書『敗戦の彼岸にあるもの』（昭和二十四年
 十一月二十日弘文堂）、「今日の愛國心—ヒュータニズムの立場か
 ら」（合著、昭和二十七年五月一日二啓社）、「今日のドイツ—破壊
 と分割の苦惱を起す」（昭和二十七年八月二十日二啓社）、「君ら
 とぞ日本を」（昭和二十七年十月二十日新光文社）、「流れの反對する」（
 昭和二十八年二月十五日未來社）、「ドイツ人とひつぱん人」（昭
 和三十年五月十五日東洋經濟新報社）、「女性と結婚」（合著、昭和
 三十一年五月二十一日河出書房）「新
 しひ女性」（、「ドイツのヒトラー
 がいたとき」（昭和五十九年九月）—
 十五頁誠文堂新光社）、「思ひ出の
 本」（合著、昭和五十九年十月十五
 日出版「イエス社」等。

